

生きもののシンフォニー

いのちかがやくなごや

令和3年3月

33号



特集

名古屋市科学館とのコラボ展示

『なごやの ざんねんじゃない! いきもの』展

2020年3月に、「名古屋市版レッドリスト」が5年ぶりに改訂されました。リストに掲載された「絶滅のおそれのある種(絶滅危惧種)」は413種となり、5年前に公表された同リストよりも24種も増えています。都市化が進む中で、生きものの生息・生育が脅かされているようです。今後、名古屋市の生物多様性を保全していくためには、まずは身近にいる生きものに興味をもってもらうことが大切だと再認識しました。そこで、当センターと名古屋市科学館とが共同して、名古屋市の絶滅のおそれのある生きものや身近にいる生きものを紹介する展示を今年度で開催しました。この展示では、展示物を約2か月間ごとに入れ替えて、5つの分類群について紹介しました。



名古屋市科学館・生命館5階
「バイオギャラリー・バイオトピック」



展示標本の準備



エコパルなごやのマンスリー企画展示
(2020年11月)にも「鳥類・は虫類編」
を出張展示しました!

CONTENTS

特集

名古屋市科学館とのコラボ展示

『なごやの ざんねんじゃない! いきもの』展 P1~3

TOPICS

夏と秋に「昆虫標本作製講座」を開催しました! P4

藤前干潟のスナメリの解剖と標本化 P4

令和2年度 主な行事等の実績 P5

活動紹介

佐屋高等学校 文鳥プロジェクト P6

掲示板

機関誌「なごやの生物多様性」第8巻を発行しました! P6

昆虫 編 7～9月

昆虫が自分の姿を何かに似せる「擬態^{ぎたい}」について紹介しました。擬態は天敵から身を守るための生存戦略で、いわば「命がけのかくれんぼ」です。名古屋市の「絶滅のおそれのある生きもの」として、隠ぺい型擬態の名人である「ナナフシ類」を取り上げ、「ナナフシたちの7不思議」と題してそのユニークな生態を紹介しました。



木の葉などの景色に
紛れて天敵から見つ
かりにくくする「隠ぺ
い型擬態」



植物の種子に擬態したナナフシ類の卵



枝に紛れるナナフシモドキヤトゲナ
ナフシ。竹の枝(=ナナフシ)に姿が
似ていることが名前の由来



毒を持つ種がお互いに似ることで天
敵に自分の危険性をアピールする
「ミュラー型擬態」、毒を持ってい
ないのに毒がある種のフリをする
「ペイツ型擬態」

【協力者(敬称略)】戸田尚希(名城大学・名古屋昆虫同好会)

植物 編 10～11月

自分で移動できない植物は、種子を出来るだけ色々な場所に運ぶ「種子散布」によって子孫を残そうとします。植物が移動のチャンスを託した種子の形や移動作戦について、種子標本などを並べて紹介しました。名古屋市の「絶滅のおそれのある生きもの」では、動物の体に付着して種子を遠くまで運ばせる「ひつつきむし」を取り上げ、ひつつく作戦に特化した種子の構造を紹介しました。



色々な種子標本

絶滅したひつつきむし(オナモ
ミ: 左側)の植物画と絶滅の
おそれのあるひつつきむし(ケ
ヤブハギ: 右側)の腊葉標本



はくせい
タヌキの剥製に付着したひつつきむし(アレチヌ
スピトハギとオオオナモミ)

【協力者(敬称略)】芹沢俊介(愛知教育大学)

鳥類・は虫類 編 12・1月

名古屋市の「絶滅のおそれのある生きもの」として、コアシサシとイシガメを取り上げました。コアシサシはコロニーを作って繁殖します。その習性を利用して「デコイ」というそっくりの模型を置いて仲間をおびきよせ、コアシサシを呼び戻す取り組みを紹介しました。またイシガメでは、産まれてくる子の性別が産卵場所となる土の温度によってどちらかに偏ることを紹介し、多様な産卵環境を残しておくことの必要性を伝えました。



コアシサシの「デコイ」



ニホンイシガメの甲羅。
オス(右側)よりもメス(左側)が
かなり大きくなる



コアシサシの飛行ルートを計測する装置
「ジオロケーター」

【協力者(敬称略)】金澤 智(名古屋市立大学)、藤井 幹(日本鳥類保護連盟)、早川雅晴(植草学園大学)、
日本野鳥の会 愛知県支部、八木夕季(元・名古屋大学大学院)、矢部 隆(愛知学泉大学・日本カメ自然誌研究会)

哺乳類 編 2・3月

哺乳類の中で唯一飛翔適応した動物であるコウモリを取り上げました。コウモリは主に人間では聞こえない音(超音波)を出し、「エコーロケーション」という方法で障害物や餌の位置、形や大きさなどを認識しています。名古屋市周辺では少なくとも4種のコウモリが生息していると考えられており、このうちキクガシラコウモリやオヒキコウモリが「絶滅のおそれのある生きもの」となっています。



はくせい
オヒキコウモリの剥製



コウモリを見つけるための探知機
「バットディテクター」



はくせい
名古屋市周辺に生息するコウモリの剥製



夏と秋に「昆虫標本作製講座」を開催しました！

当センターでは、2018年度から植物標本作製講座が行われていますが、今年度からは昆虫標本の作り方を2回連続で学べる講座も始まりました。講師は戸田尚希先生（名城大学農学部昆虫学研究室研究員・名古屋昆虫同好会会員）です。この講座では、昆虫を採集して標本作製し、標本箱に収蔵するまでの一連の工程を、座学と実践で学んでもらいます。内容の専門性が高いため、参加者は高校生以上とし、少人数での開催としました。今回は、夏（7月3日・8月28日）と秋（10月24日・12月5日）に開催した講座の様子を報告します。

夏の講座では、まず午前中にセンター近くの天白川沿いの草地や公園で、アオドウガネなどの甲虫類やイトトンボなどのトンボ類を採集し、午後からは標本作製を行いました。小さな昆虫の脚や触覚をピンセットで丁寧に伸ばしながら、「展足」する作業には、皆さん苦戦しているようでした。2か月間ほど乾燥させた後、昆虫を「針刺し」や「台紙張り」といわれる手法で、標本箱に収蔵しました。この際、

「採集ラベル」を昆虫と一緒に刺しておきます。こうすることで「いつ、どこで、だれが採集したのか」ということが明確になり、「生きものの証拠」としての価値が出るのです。その後、標本の種類を特定する「同定」作業を行いました。標本と図鑑とを見比べながらの大変な作業でしたが、講師の戸田先生にコツを教えてもらいながら、皆さん熱心に取り組んでいました。秋の講座では、バッタやイナゴなどのバッタ類をターゲットにして、同様の工程を行いました。参加者には、実際に標本を扱いながら、バッタ類を見分ける目印や名前の由来について学んでもらいました。今回の講座を通して、標本作製技術だけではなく、「標本」として残すことの意義についても伝えることが出来たのではないのでしょうか。今後もより多くの方に講座に参加してもらい、願わくはリピーターになって下さればと思っています。我こそはと思われる方、ぜひ来年度の講座にご参加ください！

（生物多様性市民協働推進員：曾根啓子）



展足の方法を学ぶ参加者



展足したマダラバッタ
うしろあし まだらもよう
（後肢の斑模様）
名前の由来



同定を行う参加者



完成した昆虫標本

藤前干潟のスナメリの解剖と標本化

スナメリ(*Neophocaena phocaenoides*)は背ビレをもたない小型のイルカで、東海地方では伊勢湾～三河湾の沿岸域に生息しています。名古屋市内では名古屋港での目撃例が多く、過去には港へ流入する河川(堀川)に迷い込んだ記録もあるようです。名古屋市版レッドリスト2020では、「絶滅危惧IA類」に指定されています。2020年5月24日、港湾区域にある藤前干潟で、1頭の死亡したスナメリが干潟の石の隙間に挟まっているのが発見されました(写真1)。発見者である藤前活動センターの関係者からの連絡を受け、当センターでこのスナメリを引き取り、解剖と標本化を行いました(写真2)。この個体は体重33kgの雌で、胃からはシバエビ(*Metapenaeus joyneri*)とアナゴ亜目(Congroidei)の一種が検出されました。解剖後には、電気鍋で煮込んで、骨格標本作製しました(写真3)。この骨格標本は、展示や普及啓発のイベント等で今後活用していく予定です。今回のスナメリの解剖や骨格標本の作製の様子をセンターのホームページ(なごや生きものライブラリー: <https://ikimono.city.nagoya.jp/>)内の「生き

ものコラム」に掲載しましたので、こちらもぜひご一読ください。
(生物多様性市民協働推進員：曾根啓子)

【参考文献】

野呂達哉, 2015. スナメリ. レッドデータブックなごや2015-動物編.
曾根啓子・野呂達哉, 2021. 藤前干潟に漂着したスナメリ(*Neophocaena phocaenoides*)の収容と標本化. なごやの生物多様性, 8.133-137.



写真1

藤前干潟に
漂着したスナメリ



写真2

センターで行ったスナメリの解剖



写真3

完成したスナメリの
骨格標本

令和2年度 主な行事等の実績

センター …なごや生物多様性センター主催

協議会 …なごや生物多様性保全活動協議会主催

【 】内は開催場所。場所の記載のない行事はなごや生物多様性センター。

日 付	名 称【開催場所】 主催
令和2年	
4月5日	池干し【熱田神宮 南神池】
6月26日	植物標本作製講座【牧野ヶ池緑地】センター
7月3日	協議会の活動が「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」受賞
7月3日	昆虫標本作製講座 センター
7月17日～9月29日	「なごやのさんねんじやない!いきもの展～昆虫編～」出展【名古屋市科学館】センター
7月22日	植物標本作製講座【平和公園】センター
8月1日～29日	なごや生物多様性サマースクール2020(11講座)【各所】協議会
8月24日	なごや生物多様性センターYouTubeチャンネル開設
8月28日	昆虫標本作製講座 センター
9月28日	植物標本作製講座【相生山緑地】センター
9月29日～11月27日	「なごやのさんねんじやない!いきもの展～植物編～」出展【名古屋市科学館】センター
10月2日～4日	なごや生きものの一斉調査2020～バッタ編～【41箇所】協議会
10月15日・24日	植物標本作製講座【小幡緑地・牧野ヶ池緑地】センター
10月23日～12月31日	センターまつり／ユースひろば【ウェブ開催】センター
10月24日	昆虫標本作製講座 センター
11月1日	ユースひろば【ライブ配信】センター
11月4日～27日	エコパル・マンスリー企画展示出展【環境学習センター】
11月14日	上下流交流による街なか林業体験 センター
11月27日～令和3年2月2日	「なごやのさんねんじやない!いきもの展～鳥類・は虫類編～」出展【名古屋市科学館】センター
12月5日	昆虫標本作製講座 センター
12月6日・7日	植物標本作製講座 センター
令和3年	
2月2日～5月頃まで	「なごやのさんねんじやない!いきもの展～哺乳類編～」出展【名古屋市科学館】センター
3月21日	なごや生物多様性シンポジウム～みんなでつなぐ生物多様性の未来～【名市大病院大ホール】センター
3月	機関誌「なごやの生物多様性」第8巻発行 センター
通年	市政出前トーク・なごやエコスクール等出前講座・見学対応等(全回)【各所】センター
通年	アライグマ防除【各所】センター
通年	市民協働による調査保全活動【各所】協議会



なごや生物多様性保全活動協議会

なごや生きもの報告会

なごや生物多様性保全活動協議会の活動報告会を開催します。令和2年度の調査等で得られた情報をもとに、最新のなごやの生きものについてお伝えします。申込方法は下記ウェブサイトに掲載されています。ぜひお申し込みください!

日時 令和3年5月9日(日) 午後2時50分から4時45分
会場 名古屋市立大学病院 病棟・中央診療棟3階 大ホール
定員 120名(抽選)

※新型コロナウイルス感染状況により、開催方法が変更又は中止となる場合があります。
 最新情報は協議会ウェブサイト(<http://www.bdnagoya.jp/>)をご覧ください。



だなも
 「生物多様性キャラクター応援団」

活動紹介

佐屋高等学校 文鳥プロジェクト

愛西市東條町
高田39



今年で8年目を迎える佐屋高等学校・文鳥プロジェクトには、現在11人の生徒が所属。代々先輩から引き継いだ飼育管理や繁殖の技術、情報発信などを通して、弥富文鳥の文化を再び広め、継承することを目指しています。

学校では現在、41羽の文鳥を絶賛飼育中。愛くるしさに癒されながらも、ヒナの飼育が特に大変だそうで、こまめな食事や水の入替えなど、活動は早朝から夜遅くまで。休日には家へ連れて帰り世話をしています。そんな生徒らの努力の甲斐あって、今年度も40～50羽の元気な文鳥が、地元や全国の購入希望者の手に渡りました。



白文鳥と桜文鳥のつがい



文鳥のヒナ



手乗り文鳥

また、小学校の出前授業で、弥富文鳥の歴史を伝えたり、地元企業とのコラボ商品「文鳥パン」や「文鳥の栞」などを開発したり。イベント出展やSNSでの発信など、地道な活動が実を結び、地元での認知度も徐々に高まっています。最近では、名古屋大学協力のもと、遺伝子分析の研究実験やSDGsと結びつけた新たな取り組みにも挑戦。こうした活動の成果は、県内農業関係高校の農業クラブが主催するプロジェクト発表会などで披露しています。

「歴史と価値ある文鳥文化をもっと広めたい」「犬や猫のように当たり前の存在になってほしい」と語る生徒たち。技術とともに、文鳥愛も後輩へと受け継がれています。

掲示板

機関誌「なごやの生物多様性」 第8巻を発行しました！

なごや生物多様性センターでは、地域で実践されている調査・保全活動等によって得られた、なごやの生物多様性に関する情報を、正確に記録し広く発信するため機関誌を発行しています。

第8巻では、なごやに関わる生きものたちの話題など、原著論文をはじめ17報が掲載されています。興味のある方は、ぜひ一度ご覧ください。機関誌は名古屋市公式ウェブサイトや名古屋市立図書館でご覧になれます。

第8巻 投稿募集

投稿期限
2021年8月31日

2021年度に発行予定の第9巻の投稿を募集します。どなたでも投稿できます。市民、保全団体、専門家、行政に所属している方など、広く投稿を募集しています。また、内容や投稿区分についても、学術的知見を記した原著論文、調査保全活動で得られた結果等を記した記録、報告および生物目録など、幅広い内容の文章を募ります。投稿規定をお読みいただき、ぜひご投稿ください。

「市民生きもの調査員」に 登録しませんか？

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイトで！

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokuyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<http://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<http://www.bdnagoya.jp/>

地下鉄塩釜口駅
2番または3番出口から
徒歩5分

